



株式会社 城南村田 かわら版

2014年 6月号

蒲田交信局



いつもお世話になります。城南村田の青沼隆宏です。今回は失敗して忘れられない事です。

忘れられないと言えば、やはり経営に関する事です。私は2002年6月1日に社長に就任しました。きっかけは得意先の倒産です。

2002年1月末に得意先倒産の知らせを受けました。手元にあった得意先発行の手形は紙くずに。2週間後の2月15日の手形決済に1億円足りない状況になりました。1日が金曜日なので週明けの4日午前中に主要仕入先へアポイントを入れ、当日の明け方までかけて再建案を作成しました。当日は一旦帰宅し、シャワーを浴びてスーツに着替え仕入先へ行きました。運よく再建案を承認いただきサポートしてもらえました。その後、金融機関を回り同様にサポートしてもらうこととなります。この時、再建案を作成したのが私であったため、「先頭に立って陣頭指揮を取れ」との仕入先からの要望で社長に就任しました。

当時、社長は私の父でした。専務取締役・常務取締役は父の弟2人。兄弟3人での経営でした。当時の城南洋紙店が倒産しそうになった直接の原因は得意先の倒産でしたが、本当の原因は叔父2人の商品の横流し・使い込み等を許してきた父の放漫経営にありました。当然、父は引退し叔父二人は解任しました。営業担当常務であった叔父とは使い込んだお金の返還を求めて裁判で争いました。結果、2年間で無事に再建は終了し正常化しました。

しかし正常化した後が問題でした。今度は売上が下がり始めました。原因は人です。先ほど専務・常務の話を書きましたが、それは彼らの悪い一面です。もちろん良い面もあります。常務で言えばお客様に好かれ営業として優秀であったこと。再建中の2年間は崖っぷちでしたから社員も私も懸命に働きました。再建後は我々全員が普通に帰ってしまいました。営業として優秀だった叔父がいなく、普通の社員と紙をよく知らない社長が残りました。売上減少が止まりませんでした。

この経験から大切なことを学びました。①人の良い側面を見て、それを伸ばすこと。②社員を成長させるためにトレーニング等を惜しまない事。③横領等を出来ない仕組みを社内で作ること。これらも「学び」として認識するのにずっと後までかかりました。



株式会社 城南村田 かわら版

2014年 6月号

蒲田交信局



いつも大変お世話になっております。営業部の川原です。先月に引き続きの登場ですが、今回は”失敗して忘れられないこと”について書かせていただきます。

お酒を飲んでの失敗は多かれ少なかれ、みなさんも経験されているとは思いますが。

私自身も強い方ではありませんがお酒は好きな方で、たまに会社の帰りに飲んで帰ることもあります。

かなり以前にコンピュータ関係の仕事をしていた時のことです。

仕事も山場を越え、客先からの帰りに先輩、同僚といっばい飲んでいこうとなりました。

季節は冬で、鍋をつつきながらいい気分であらゆる飲み過ぎて、温かい電車の中でついつい座り（座ったのが間違いだった）寝込んでしまい、客先と詰めてきた大切な資料とデータの入ったフロッピーデスクを置き忘れてしまい結果、紛失してしまったという経験があります。

気が付いたのは翌朝で、本当に頭が真っ白になった記憶があります。

大切な資料は、先輩と一緒に客先に頭をさげて、なんとか再度提出していただき、データに関しては同僚に徹夜も含めて付き合ってもらい何とか復旧できました。

あの時だけは先輩と同僚に本当に心から感謝しました。

客先からはかなりのクレームも出て、上司からはきつく叱られ、かなりの間、へこんでいましたし、酒は2度と飲まないとまで、その時は決心しましたが。。。。。（1か月くらいは禁酒しました）

それ以降、“飲んだら座るな”を頭の片隅の置き、飲んだ時は電車の中では座らないようになりましたし、大きな失敗は以降、多分していないと思います。

最近の話なのですが、飲んだ帰りの電車の中でついつい座って寝てしまい、気が付いたら何駅か乗り過ごしてしまい、なんとか終電で帰れたことがありました。

やっぱり私は”飲んだら座るな” “なのです。

以上